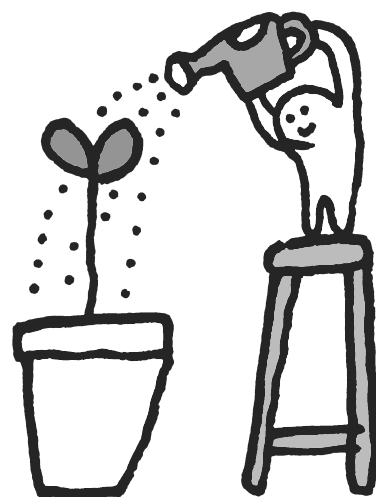


第32回社会福祉士・第22回精神保健福祉士 国家試験 受験対策 web 講座

相談援助の理論と方法

空閑 浩人（同志社大学）

- ・同志社大学文学部文化学科教育学専攻卒業
- ・一般企業での勤務を経て、身体障害者福祉施設の職員となる。
その間、専門学校に通い、社会福祉士資格取得
- ・その後、同志社大学大学院文学研究科社会福祉学専攻に入学。
同大学院博士後期課程満期退学後、福岡教育大学での勤務を経て、現職
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟 理事
- ・現在は、ソーシャルワークやソーシャルワーカー養成に関する研究を行っています
- ・著書は『ソーシャルワーク論（シリーズ福祉を知る2）』（ミネルヴァ書房、2016年）
『ソーシャルワークにおける「生活場モデル」の構築—日本人の生活・文化に根ざした社会福祉援助—』（ミネルヴァ書房、2014年）
『ソーシャルワーカー論—かかわり続ける専門職のアイデンティティ—』（編著、ミネルヴァ書房、2012年）など
- ・社会福祉士国家試験の受験勉強は決して楽ではありません。
しかし、「国家試験合格」という、これほど明確な目標を持って日々を過ごすという経験は、人生のなかでそんなにありません。
せっかくなら、そんな時間も味わいつつ、あとは・・・やるだけです！

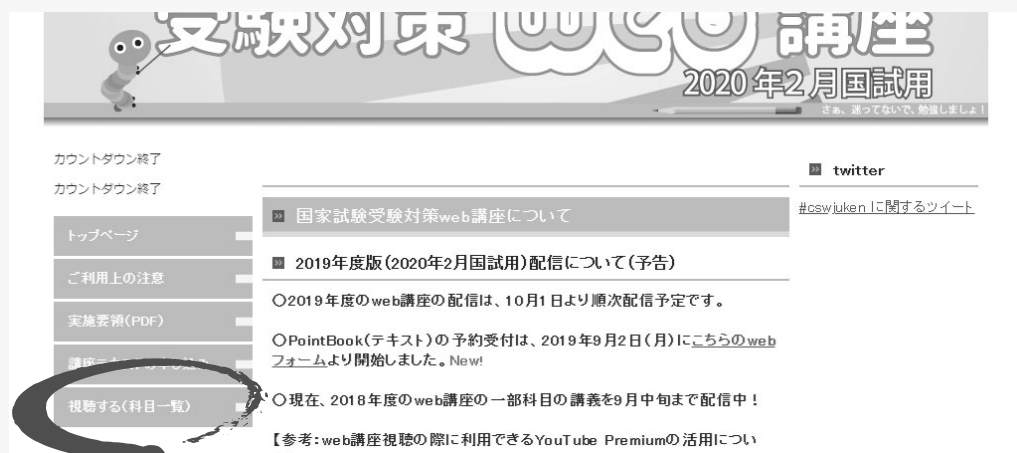


受験対策 web 講座



アクセス用 QR コード

- ① 日本ソーシャルワーク教育学校連盟
ホームページに開設されている『社会福祉士・
精神保健福祉士国家試験受験対策 web 講座
特設サイト』にアクセスしてください。
- ② ホームページの左側にある【視聴する（科目一覧）】各科目名をクリック
すると、該当科目の講座映像が視聴できます。



- ③ このページ下部の『web 講座の利用について』『ご利用の前に』をよく
お読みの上、視聴してください。

受験対策 web 講座の 利用について

本連盟がこの web 講座映像配信で利用している動画配信サイト【YouTube】は、利用規約により、講座映像の商用利用を禁止しています。

この web 講座を、パブリックビューイング形式（独自に会場等を設定して講義映像を放映し、複数の方が視聴すること）で利用する場合、参加費等の費用を視聴者から徴収することはできませんのでご注意ください。さらに、受験対策 Point Book をコピーして配布することは、固く禁じます。

なお、【YouTube】の利用規約に違反し、損害賠償や訴訟等法的措置が講じられた場合は、当該違反者がその責任を負うものとし、本連盟は一切の責任を負いません。

ご利用の前に

- 『受験対策 web 講座』映像や『受験対策 Point Book』は、国家試験直前の受験対策として本連盟が作成しています。『受験 web 講座』映像や『受験対策 Point Book』は、必ずしも国家試験の合格を保障するものではありませんので、各自の判断によりご利用ください。web 講座映像や受験対策 Point Book の視聴・購読によって、視聴した者及びその関係者が不利益を被った場合も、本連盟及び当該科目担当講師は一切責任を負いません。
- 本講座では、個人からの講義内容に関する本連盟及び講師への意見・質問・疑義照会は受け付けておりません。
- 『受験対策 Point Book』は、各講師が国家試験までに最低限押えておくべきポイントを絞って作成しています。講義内で口頭のみで説明している内容は、各自調べて理解を深めてください。
- 『受験対策 web 講座』映像や『受験対策 Point Book』の内容に万が一訂正があった場合は、特設サイト内の当該講座の視聴ページに訂正・補遺を掲載します。
- 『受験対策 Point Book』の点訳資料及び講義映像内の字幕・手話通訳はご用意できません。
- 乱丁・落丁本はお取り替えしますので、現物を着払いでご返送ください。

「相談援助の理論と方法」の出題傾向と対策、本講座で取り上げる内容

* 出題傾向と対策

- ①人と環境を捉えるシステム思考とソーシャルワークの理論、実践モデルやアプローチおよび関連する人名。
- ②ソーシャルワークの「過程」に関すること、および援助関係の構築や相談援助における面接技術。
- ③ケアマネジメントやグループワーク、スーパービジョンに関する内容
- ④社会資源の開発やネットワーク形成について、またソーシャルワークの記録や個人情報保護に関する内容。
- ⑤相談援助の実際に関する事例問題は、事例に忠実に（勝手な想像力？を働かせないこと）、かつソーシャルワークの原則（利用者本位、自己決定、権利擁護に基づく環境調整的視点）に沿って回答する。

* 本講座の MENU : [超重要&定番 10 項目] を取り上げて

- I 人と環境との相互作用・システム理論
- II ソーシャルワークのアプローチ
- III ソーシャルワークの理論と人物
- IV ソーシャルワークの展開過程
- V ソーシャルワークのアセスメントツール
- VI ソーシャルワークの効果測定
- VII 多職種連携と事例研究
- VIII 集団を活用した援助（グループワーク）
- IX スーパービジョン
- X ソーシャルワークの記録

* 受験勉強に励んでいるあなたに伝えたい「15」のこと

- ①「受験勉強」は何のためにするのか？ → もちろん「合格」するため！！それ以外にはない！？
- ②福祉士国家試験の出題形式は決まっている。
- ③だから、「アウトプット」を想定した「インプット」をすること（アタマを「受験仕様」にする）。
- ④そのために、はじめから「試験問題」を意識した勉強を（「問題集」を活用する）。
- ⑤受験に必要な知識の定着は、「点」で覚える→「線」で覚える→「面」で覚える、を意識して。
- ⑥無理に「力試し」をしなくていい→ 余計なストレスやプレッシャー？は感じなくていい。
- ⑦「答え」を見てはいけないのは本番だけ（問題集も遠慮なく「答え」を見ながらやろう）。
- ⑧過去問や模擬問題は「おいしい」！？（そのテーマに関する重要事項が整理されたかたちになっている）
- ⑨だから、誤った文言を修正して、「その問題ごと」覚えるつもりで。
- ⑩あわせて（関連する）「キーワード」「重要用語」を押さえること。
- ⑪そのために、『用語辞典』を繰り返し活用する。
- ⑫よく理解できない内容であっても、とにかく「理屈抜き」で覚えることも必要。
- ⑬「相談援助」は社会福祉士国家試験の「本丸」の科目（他の科目に比べて出題数が多く、事例問題が多い科目）。「相談援助の基盤と専門職」と重なる内容が多いので、両科目を連結させて勉強すること。
- ⑭「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」を制するものは「社会福祉士国家試験」を制する！
- ⑮今、この講座を見ている・聴いているということは、あなたが「あきらめていない！」という証。合格した人とは、「最後まであきらめなかった」人である！

I. 人と環境との交互作用・システム理論（ソーシャルワークを支える考え方！）

1. システム理論とソーシャルワークの特性

- ・個人とその人を取り巻く環境との間に「交互作用（単一の相互作用ではなく、複数の相互作用同士が互いに影響を及ぼし合う状態）があるとして、個人と環境との適合のあり方に焦点を当てる。

2. ベルタランフィの一般システム理論

- ・様々な現象はシステムとしてとらえることができるとして、統一的な一般理論を構成しようとするものであり、物理学・生物学・心理学・社会学等に大きな影響を与えた。

3. ピンカスとミナハンによるソーシャルワークを構成する4つの基本システム

- ・この4つのシステムが相互作用して、連動する過程が、ソーシャルワーク実践である。
 - ① クライアント・システム：援助の対象となるシステム（個人・家族・集団・地域など）。
 - ② チェンジ・エージェント・システム（ワーカー・システム）：援助活動を担当するソーシャルワーカーとそのソーシャルワーカーが所属する機関や施設の職員全体。
 - ③ ターゲット・システム：クライアントとソーシャルワーカーが、問題解決のために働きかける人々やサービス、組織、機関、施設など。
 - ④ アクション・システム：問題解決に取り組んでいくために参加・協力する人々や活用する資源の全体。

問題1 ソーシャルワークの特性について、システム理論の視点からなされた次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- (×) 1 生活システムの中心は個人であるため、個人を特化して、その変化に焦点を当てて働きかける。
- (×) 2 生活問題の原因が個人と環境のどちらにあるのかを見極めて、その原因の除去を目指して働きかける。
- (×) 3 個人と環境とをシステムとして一体的にとらえることは容易でないため、環境の問題については、個人と切り離して働きかける。
- (×) 4 個人や家族、地域のそれぞれを相互に独立したシステムとしてとらえ、各システムに個別に働きかける。
- (○) 5 個人はその環境との間で常に交互作用を行っており、個人と環境との適合のあり方に焦点を当てて働きかける。

【解説】

- 1：個人を特化するものではない。
- 2：個人か環境かのどちらかではなく、両者の交互作用の状態からとらえる。
- 3：両者を切り離さず、一体的にとらえる。
- 4：相互に関連するシステムとして、連続的にとらえる。

問題2 システム理論に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- (×) 1 今日のソーシャルワークは、ベルタランフィ（Bertalanffy,L.）がソーシャルワークの基礎理論として提唱した一般システム理論にその多くを負っている。
- (×) 2 ピンカス（Pincus,A.）とミナハン（Minahan,A.）は、ソーシャルワークの4つの基本システムとして、チェンジ・エージェント・システム、アクション・システム、クライアント・システム、ターゲット・システムを挙げ、そのうちチェンジ・エージェント・システムが上位システムとしてすべてをコントロールするとした。
- (×) 3 「システム」とは一般的に、複数の要素が関係しあい、全体としてまとまった機能を発揮している組織系統を指し、さまざまなレベルにおける人々の集合と限定される。
- (○) 4 エコロジカル・アプローチは、人と環境との相互作用とその全体をみることを重要としており、システム理論と生態学理論を基にして生まれた。
- (×) 5 システム理論は、ソーシャルワークの治療モデルにみられる直線的因果関係を重視する。

【解説】

- 1 ソーシャルワークの基礎理論としては提唱していない。
- 2 4つのうちのどれかのシステムが上位ということではない。
- 3 人々の集合とは限らない。
- 4 1960年代後半から1970年代にかけて生まれ、後にジャーメイン（Germain,C.B.）らによりライフモデル（生活モデル）として体系化された。
- 5 「原因→結果」の直線的因果関係ではなく、人と環境との交互作用のあり方や円環的關係を重視する。

Ⅱ. ソーシャルワークのアプローチ（ソーシャルワークの理論と実践！）

1. ソーシャルワークの様々なアプローチ

- ①診断主義アプローチ：トール（Towle,C.）、ハミルトン（Hamilton,G.）
 - ・精神分析学の知見を取り入れ、クライエントの心理的側面に焦点を当てる。
- ②機能的アプローチ：ランク（Rank,O.）、タフト（Taft,J.）、ロビンソン（Robinson,V.）、スモーリー（Smalley,R.）
 - ・「意思心理学」を基礎に、クライエントの主体的意思に注目し、そのニーズを機関の機能との関係で明確化する。
- ③問題解決アプローチ：パールマン（Perlman,H.）
 - ・人生そのものが問題解決の連続として、長期的視点に立った支援を行う。
 - ・クライエントのワーカビリティ（問題解決能力）を重視して、役割機能上の問題に対処できるように援助する。
- ④心理社会的アプローチ：ホルリス（Hollis,F.）、ハミルトン（Hamilton,G.）
 - ・「診断主義」の概念を継承して、心理的要因と社会的要因との相互作用をとらえる。
 - ・ホルリスは「状況のなかにある人」という視点から、主として経験に基づく人格形成に注目した。
- ⑤危機介入アプローチ：ラポポート（Rapoport,L.）、キャプラン（Caplan,G.）
 - ・危機状態にあるクライエントに短期集中的に働きかける。キャプランは早期介入を重視した。
- ⑥家族システムアプローチ：ハートマン（Hartman,A.）
 - ・クライエントの身近なシステムとしての家族に働きかける。
- ⑦ユニタリー・アプローチ：ゴールドシュタイン（Goldstein,H.）
 - ・システム理論を踏まえつつ、戦略、ターゲット、段階の3つの次元からソーシャルワークを捉える。
- ⑧エコロジカル（生態学的）アプローチ：ジャーメイン（Germain,C.）、ギッターマン（Gitterman,A.）、マイヤー（Meyer,C.）
 - ・「生態学」の概念を導入して体系化。生活システムにおける個人と環境との適合を図る。
- ⑨課題中心アプローチ：リード（Reid,W.）、エプシュタイン（Epstein,L.）
 - ・長期援助のケースワークへの批判から生まれた。生活上の具体的課題に焦点を当て、短期の計画的援助を行う。
- ⑩行動変容アプローチ：トーマス（Thomas,E.）
 - ・「行動理論（学習理論）」に基づき、表出される特定の行動の除去や強化を通して、問題となる行動の変容を促す。
- ⑪エンパワメントアプローチ：ソロモン（Solomon,B.）、リー（Lee,J.）
 - ・クライエントが自ら置かれている抑圧状況を認識し、自らの能力に気づき、高めて、問題への対処を目指す。
- ⑫ストレングスアプローチ：サリービー（Saleebey,D.）、ラップ（Rapp,C.A.）、ゴスチャ（Goscha,R.）
 - ・クライエント個人や家族、地域に見出せる強さ（ストレングス）に焦点を当てて、問題解決を行う。
- ⑬解決志向アプローチ：バーグ（Berg,I.）、シェザー（Shazer,S.）
 - ・クライエントに具体的解決イメージを想起させ（ミラクルクエスチョン）、その短期間での実現に焦点を当てる。
- ⑭ナラティブアプローチ：ホワイト（White,M.）、エプストン（Epston,D.）
 - ・社会構成主義の考えを基盤として、「問題の外在化」を図り、クライエントの主観的な物語を重視して、ワーカーと共に新たな物語（人生や現実への意味づけ）を描く。

問題3 ソーシャルワークのアプローチと焦点を当てるべき事象の組み合わせに関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- (×) 1 心理社会的アプローチにおいては、急性の感情的な混乱状態にある利用者の対処能力の強化、社会的機能の回復に焦点を当てる。
- (×) 2 問題解決アプローチにおいては、利用者自らがもっている具体的な解決イメージを重視し、

- 問題が解決した状態を短期間で実現することに焦点を当てる。
- (×) 3 課題中心アプローチにおいては、利用者のニーズを機関の機能との関係で明確化し、その機能を個別化して提供することに焦点を当てる。
- (×) 4 機能的アプローチにおいては、利用者の行動に焦点を当てて、経験を通じた再学習によって、課題とされる行動の望ましい方向への変化を促す。
- (○) 5 エンパワメントアプローチにおいては、利用者が自らの置かれている否定的な抑圧状態を認識し、自らの能力に気づき、その能力を高め、問題に対処することに焦点を当てる。

【解説】 1 危機介入アプローチのこと 2 解決志向アプローチのこと
3 機能的アプローチのこと 4 行動変容アプローチのこと

Ⅲ. ソーシャルワークの理論と人物（相談援助問題の定番！）

- 問題4 ソーシャルワークにおける人と環境に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。
- (×) 1 リッチモンド (Richmond, M.) は、個人と社会環境とを明確に区別し、社会環境に焦点を当てて対処することが必要であることを強調する。
- (×) 2 ホルリス (Hollis, F.) は、「状況の中にある人間」といった概念を用いて、個人の人格が社会環境によって形成されていく過程を分析しようとする。
- (×) 3 パールマン (Perlman, H.) は、「4つのP」の一つに「場所 (place)」を含めることによって、個人を取り巻く環境を視野におさめようとしている。
- (×) 4 キャプラン (Caplan, G.) は、通常の方法では対処できないほどの急激な環境変化を危機としてとらえ、環境を元に戻すための介入を重視している。
- (○) 5 ソロモン (Solomon, B.) は、個人と敵対的な社会環境との相互関係によって、人は無力（パワーレス）な状態に陥ることが多いとしている。

【解説】

- 1 リッチモンドは「人とその社会環境との間を個別に、意識的に調整する」とした。
- 2 ホルリスは、主として経験を通じた人格形成に関心を向けた。
- 3 パールマンの「4つのP」における場所 (Place) とは、ソーシャルワーカーの所属する福祉機関のこと。
- 4 キャプランは、人や家族が危機状態に陥る可能性をあらかじめ捉えることによる早期介入を重視した。
- 5 ソロモン (1976)『黒人へのエンパワメントー抑圧された地域社会におけるソーシャルワーク』は有名。

（参考1）パールマンによるケースワークの定義と「4つのP」（「6つのP」）

- ・ケースワークとは人々 (Person) が社会的に機能するあいだに起こる問題 (Problem) をより効果的に解決することを助けるために福祉機関 (Place) によって用いられる過程 (Process) である（後に「専門職 (professional person)」および「制度 (provisions)」が加えられ「6つのP」とされた）。

- 問題5 ソーシャルワークにおけるストレングスモデルに関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。
- (×) 1 ソロモン (Solomon, B.) は、ストレングス視点の原則のなかで、すべての個人、家族、集団、コミュニティはストレングスをもつと述べた。
- (×) 2 ホルリス (Hollis, F.) は、心理社会的アプローチにおいて、クライアントの動機づけ、情緒的能力、知的能力、身体的能力からなる能力をストレングスと表現した。
- (×) 3 ジャーメイン (Germain, C.) は、ストレングスアプローチの立場から、ストレングスはエンパワメントの要素であり資源であると述べた。
- (○) 4 ラップ (Lapp, C.) とゴスチャ (Goscha, R.) は、ストレングスモデルの原則の一つとして、地域を資源のオアシスとしてとらえることを挙げている。
- (×) 5 リード (Reid, W.) とエプスタイン (Epstein, L.) は、課題中心アプローチにおいてストレングスを中心に位置づけ、援助を短期間で計画的に実行することを重要視した。

【解説】

- 1 これは、サリービー (Saleebey, D.) のストレングスアプローチのこと。
- 2 ホルリスは「状況のなかにある人」という視点から主として経験を通じた人格形成に関心を向けた。
- 3 これは、ソロモンのエンパワメントアプローチの説明。
- 4 ラップとゴスチャは、精神障害者へのケースマネジメントに焦点を当てたストレングスモデルにつ

いて論じた。

- 5 課題中心アプローチは、問題解決のために取り組むべき具体的な課題を明確にすることを中心に位置づける。

(参考2) パールマンの「ワーカビリティ (workability)」の概念 (ワーカーの問題解決能力ではないことに注意)

- ・問題解決アプローチにおいて協調された、クライアントの問題解決能力のこと。
- ・クライアントの動機づけに加えて、情緒的能力、知的能力、身体的能力からなる。

(参考3) フェミニストアプローチ

- ・フェミニズムの思想に基づき、エンパワメントの考え方に影響を受けて登場したソーシャルワークアプローチ
- ・女性にとっての社会的な差別や抑圧などの現実を顕在化させ、そのような社会的抑圧状況をなくすと及び個人のエンパワメントを目指す。

IV. ソーシャルワークの展開過程 (ソーシャルワークは「過程 (プロセス)」だ！)

1. 過程 (process) としてのソーシャルワーク

- ・リッチモンド「ソーシャル・ケースワークとは人間とその社会環境とのあいだを、個々に応じて意識的に調整することにより、パーソナリティの発達をはかるさまざまな過程からなるものである」
- ・パールマン「ソーシャル・ケースワークは、人々が社会的に機能する間に起こる問題をより効果的に解決することを助けるために、福祉機関によって用いられる過程である」

2. ソーシャルワーク (相談援助) の展開過程

- ① インテーク (受理面接)・アウトリーチ：利用者の主訴を傾聴するなど、利用者の抱える問題点を明らかにする。
- ② アセスメント (事前評価)：クライアントとその問題状況に関する情報収集・分析・整理を行う。
- ③ プランニング (援助計画作成)：アセスメントの結果を基に、援助目標を設定し、その目標に向けてどのように援助していくのかの計画を作成する。
- ④ インターベンション (介入)：問題解決に向けて、援助計画を実行に移す。
- ⑤ モニタリング (経過観察)：援助計画の実施状況を把握する。必要であれば再アセスメントや計画の見直しを行う。
- ⑥ エヴァリュエーション (事後評価)：援助の終結を迎えるにあたり、援助目標や計画の達成状況を評価する。
- ⑦ ターミネーション (終結)：事後評価の結果を踏まえて、援助を終結する。
- ⑧ アフターケア：終結後でも必要に応じて状況把握を行い、状況によっては援助を再開する。

問題6 相談援助の過程に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- (○) 1 インテーク段階は、クライアントの主訴を傾聴するところから始まる。
- (×) 2 アセスメント段階では、クライアント自身が述べた情報より、家族や関係者から得た情報が優先される。
- (×) 3 プランニング段階では、サービス利用状況のモニタリングを実施する。
- (×) 4 援助の実施段階では、クライアントとの間に信頼関係を形成することが、主な取り組み課題となる。
- (×) 5 アフターケア段階では、プランニングで設定した計画の進捗状況について継続的に把握し、新たなアセスメントにつなげることが目的となる。

【解説】 2 様々な情報を総合的にとらえる 3 モニタリングは介入後の過程
4 信頼関係の形成はインテーク段階の課題 5 これはモニタリングの説明

問題7 モニタリングに関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- (×) 1 モニタリングとは、クライアントの問題解決に最適な方法を見つけ出すために、利用者と問題を取り巻く状況を多面的・総合的に評価することである。
- (×) 2 モニタリングの際にクライアントが発言する力を十分もっていない場合には、サービス提供者からの意見や報告で確認を行う。
- (○) 3 ソーシャルワークにおけるモニタリングの重要な視点として、クライアント自身の課題への取

り組み状況を確認することが挙げられる。

(×) 4 サービス提供状況に関するモニタリングの方法の一つであるケア会議には、クライアントや家族が参加する必要はない。

(×) 5 モニタリングは、支援計画が適切に実施されたのかを評価するため、終結後に実施する。

【解説】

1 これはアセスメントの説明

2 このような場合は、サービス提供者からの意見や報告で確認を行うのではなく、ソーシャルワーカーが状況を十分に確認し、クライアントのニーズや意見を代弁するアドボカシー（権利擁護）の機能を発揮する。

4 必要に応じてクライアントや家族の参加が求められる。

5 モニタリングは、支援開始後の経過を観察・評価することであり、支援の実施から終結までの間に行われる。

（参考）インテーク段階でやること

①利用者の主訴から利用者が抱える問題点を明確化

②援助者の役割と所属機関で提供する支援の説明

③所属する機関がクライアントに適切な支援を提供できない場合は他機関などを紹介

④利用者が機関の支援を利用する場合の意思確認（契約など）

⑤今後の支援に関する説明と利用者との信頼関係の形成

V. ソーシャルワークのアセスメントツール（人と環境との相互関係を捉えたい！）

問題8 ソーシャルワークにおけるアセスメントツールに関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

(○) 1 ソシオグラムとは、成員間の選択・拒否関係を図式化して、小集団における人間関係の構造を明らかにするためのものである。

(×) 2 インターライ (InterRAI) 方式とは、支援の対象となる地域の課題解決に向けて、その課題を客観的に測定するためのものである。

(×) 3 エコマップとは、白地図に物的資源を記入して、クライアントと自然環境の関係を明らかにするためのものである。

(×) 4 PIE (Person-in-Environment) とは、クライアントが担ってきた役割や経歴上の出来事を取り上げて、その人生行路を観察するためのものである。

(×) 5 ジェノグラムとは、クライアントに樹木の木を描かせて、家庭における世代間の関係を理解するためのものである。

【解説】

1 ソシオグラムとは、グループ構造（グループ内の人間関係）を測定する方法として、モレノ (Moreno, J.L.) によって開発された「ソシオメトリー」の理論に基づく「ソシオメトリックテスト」の結果を図示したもの

2 インターライ方式とは、2011年にMDS (Minimum Data Set) から改称したもの。介護や何らかの支援を必要とする高齢者個人を対象として課題分析をするアセスメントツール。

3 エコマップは、生態地図ともいわれ、クライアントを取り巻く人や場所・施設や機関などと、クライアントとの関わりや関係性を、一定の線などで表すことで、クライアントが置かれている状況（社会環境との関係性）を図式化して表現する。1975年にハートマン (Hartman, A.)によって考案された。

援助者はクライアントに影響を与えている周囲の人々などの環境との関係性を一度に把握することができ、介入の方法や社会資源の活用に関する展望が可能になる。

4 PIE は、「環境の中の人」であるクライアントの社会生活における機能的な側面での課題を記述し、分類し、記録するためのツールとして、カールズ (Karls, J. M.) やウォンドレイ (Wandrei, K. E.) 開発されたシステム。

5 ジェノグラムは3世代以上の家族の人間関係を図式化したもの。たとえば婚姻や親子関係、死亡や離婚、再婚なども記号によって表される。家族の歴史や家族関係を把握するにあたり、文字による記録を補完して、理解の助けとなる。

問題 9 事例を読んで、エコマップの活用に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

〔事例〕

J さん（32 歳）は、5 年前夫と離婚した。実家の父親からも勘当同然の扱いを受けていた。その頃、J さんが長期に入院療養が必要になったことから、息子（6 歳）は児童養護施設に入所した。J さんはその 1 年後に退院し、職場に復帰した。実家との関係も改善し、同僚や近隣との付き合いも増えてきたことから、最近では息子を引き取りたいと施設に申し出ている。息子を引き取ることについての支援をすることになり、K 家庭支援専門相談員（ファミリーソーシャルワーカー）は、アセスメントツールとしてエコマップを活用することにした。

- (×) 1 J さん及び離婚した夫それぞれの原家族を三世代にわたって把握する。
- (×) 2 J さんの家族力動の洞察を促す。
- (×) 3 J さんの対人関係の持ち方について体験的に学ぶ機会とする。
- (○) 4 J さんと家族、離婚した夫、友人、関係機関等の関係を把握する。
- (×) 5 J さんの同僚との関係を測定する。

【解説】 1 これはジュノグラムの説明。 2 これはファミリーマップのこと。

3 エコマップは体験を意図したものではない。

5 エコマップは特定の人間関係を測定するものではない。

(参考 1) ファミリーマップ：家族関係を記号で図示するものであり、家族のコミュニケーションや力関係、情緒的な結びつき（仲がいい・悪い、会話の有無など）を単純化して捉える。

(参考 2) 家族力動：家族を一つの集団・システムとして捉え、家族メンバー相互の関係を構造的に捉える視点。家族療法・家族ソーシャルワークにおいて重視される。

Ⅵ. ソーシャルワークの効果測定（難しい言葉だけどがんばって覚えよう！）

1. 効果測定

ソーシャルワークにおける援助の有効性を科学的・客観的に評価すること。専門職としてクライアントや社会への説明責任を果たし、援助の質を向上させるために行う。

2. ソーシャルワークの効果測定の方法

- ①断面的事例研究法：ある一時点での「複数」の調査対象者のデータを用い、それらの特徴を明らかにする方法。
- ②グランプリ調査法：援助方法により分けられたグループ間の比較により、各援助方法の効果を比較検証する方法。
- ③メタ・アナリシス法：特定の援助に着目した多くのデータを総合的にに取り扱い、援助の効果を評価する方法。
- ④単一事例実験計画法（シングル・システム・デザイン）：「一事例（個人、家族、集団）」についての援助効果を測定する方法。援助を行う前と後とを比較し、利用者の状況の変化と援助との因果関係を、時間の流れに沿って繰り返し観察する。
- ⑤集団比較実験計画法（集団比較実験デザイン）：同様の課題を抱えるケースに対して、援助を行うグループと行わないグループとに分類して比較し、援助の効果を評価する方法。
- ⑥古典的実験計画法（プリテスト・ポストテスト統制群法）：集団比較実験計画法の代表的なもの。利用者を、援助を受ける「実験群」と受けしない「統制群」に無作為に分けて比較を行う。援助実施の前後に両者に差があれば、援助による変化であると評価する方法。

問題 10 ソーシャルワークにおける効果測定の方法に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- (×) 1 ソーシャルワークにおける効果測定は、ソーシャルワーカーの援助技術がどの程度向上したかについて、スーパーバイザーが評価することによって行われる。
- (×) 2 ソーシャルワークの効果測定における単一事例実験計画法では、個人の事例が対象となり、家族や集団の事例は除かれる。
- (×) 3 ソーシャルワークにおけるエビデンス・ベースド・プラクティス（EBP）とは、事例研究による質的調査ではなく、量的調査によって効果測定を行うことである。
- (×) 4 ソーシャルワークにおける効果測定とは、支援計画の実施状況やサービスの利用状況、また、新たな課題の発生の有無などの定期的な観察を行うことである。

- (○) 5 ソーシャルワークの効果測定における集団比較実験計画法は、同じ課題をもつ人のなかから介入した群と介入しなかった群に分けて評価を行う。

【解説】

- 1 利用者に対する支援の評価が目的であり、ワーカーの援助技術の向上に関する評価を目的とするものではない。
- 2 個人の事例だけでなく、家族や集団の事例も含まれる。
- 3 質的あるいは量的に集積されたデータ等を次の実践の根拠(エビデンス)にするということであり、質的調査か量的調査かを問うものではない。
- 4 これはソーシャルワークの展開過程における「モニタリング」の説明。
- 5 「集団比較実験デザイン」とも呼ばれ、同様の課題に対する介入の効果・プログラム効果を測定する。

問題 11 大企業の企業内ソーシャルワーカーである G 相談員(社会福祉士)のもとに、うつ状態となった H さんが来室した。G 相談員は、主治医と連携して H さんの生活状態の改善を目指した援助を始めることとなった。そして、援助の効果を判断するために、標準化されたスケールを用いて、援助開始前と援助中の効果を定期的に測定することにした。

次のうち、この場合の効果測定の方法を表すものとして、適切なものを一つ選びなさい。

- (×) 1 断面的(cross-sectional)事例研究法
(×) 2 グランプリ調査法
(×) 3 メタ・アナリシス法
(○) 4 単一事例実験計画法
(×) 5 集団比較実験計画法

【解説】

- 4 一つの事例について「標準化されたスケールを用いて、援助開始前と援助中の効果を定期的に測定する」のは、単一事例実験計画法である。

Ⅶ. 多職種連携と事例研究(専門職としての社会福祉士が担う大切な仕事!)

1. 多職種連携におけるチームワークのために求められること

- ①共通目標の設定 ②情報の共有 ③成果の共有 ④責任の共有 ⑤積極的な参加

2. 地域における連携・ネットワーク活動

- ①ソーシャル・サポート・ネットワーク: クライエントを取り巻く家族、友人、近隣住民などによるインフォーマルな支援と公的機関やその他の専門機関によるフォーマルな援助をつなぎあわせて構築されたネットワーク。
②小地域ネットワーク: 近隣住民によるニーズ発見や見守り、助け合いを中心としたネットワーク(たとえば一人暮らし高齢者への訪問や声かけなどの見守り活動がある)。

問題 12 多職種チームに関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- (×) 1 多職種チームの会議では、取り扱う事例や協議事項の内容にかかわらず、特定の職種がリーダーを務める。
(○) 2 メンバーが共通にアクセスできる記録システムをもつことによって、メンバー間の効率的な協力が可能となる。
(×) 3 メンバーの専門的な立場がそれぞれ異なるために、メンバー間で互いの不安や葛藤を受け止めることは困難である。
(×) 4 多職種チームの会議では、ソーシャルワーカーはスーパーバイザーとしての役割を果たし、アドバイスなどを行う。
(×) 5 多職種チームによる連携では、チームの各メンバーができる限り同じ役割を果たすように努める。

【解説】

- 1 取り扱う事例や協議事項の内容、出席者の状況等により、適切なリーダー役は異なる。
- 2 多職種チームが適切に機能するために、情報の共有は大切である。
- 3 目的や目標を共有する信頼関係が形成されることによって、不安や葛藤を相互に受け止めることが可能となる。

- 4 異なる職種間で「コンサルテーション」が行われることはあるが、職種が異なる者同士のスーパービジョンは一般的ではない。
- 5 チームの各メンバーがそれぞれの専門性を活かした役割分担が望ましい。

問題 13 事例研究（ケーススタディ）に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- (×) 1 事例研究では、事例そのものについての理解を深め、より効果的な対応ができるように検討することを意味し、実践に焦点が置かれている。
- (×) 2 単一の事例について研究する場合、量的に研究する方法はなく、質的研究を行うことになる。
- (×) 3 質問内容や回答の選択肢などを事前に設定している構造化面接では、構造化されていない面接よりも、面接者の技能により得られるデータの質が左右される。
- (○) 4 複数の事例研究を重ねることで、いくつかの事例に共通する社会環境上の要因を明らかにすることが可能であり、社会環境の改善に向けて提言することができる。
- (×) 5 秘密保持義務をもつ専門職のみが集まる場であれば、現場の事例分析を発表する場合でも、匿名化した事例を記した配付資料は回収する必要はない。

【解説】

- 1 これは事例検討・事例分析のこと。事例研究では、事例を通して問題を明らかにし、援助理論の構築や検証に焦点を当てる。
- 2 たとえば、単一事例実験計画法では、単一事例であっても援助目標を数量化できるように設定し、援助前と援助開始後の比較を量的に行うことによって援助効果を測定することができる。
- 3 質問内容や回答の選択肢、面接の手順をあらかじめ決めていない（構造化されていない）面接の方が、得られるデータの質は、面接者の技能に左右される。
- 4 事例研究の積み重ねは、社会環境改善のための取り組み（ソーシャルアクション）につながる。
- 5 資料が後に誰の目に触れるかは不確かであり、たとえ匿名化しても状況から個人を特定できることがあるため、回収してプライバシー保護を図ることが必要である。

Ⅷ. 集団を活用した援助（グループワーク）（グループワークならではの特徴と醍醐味を知ろう！）

1. コノプカによる（Konopka, G.）グループワークの 14 の原則

- ①グループ内での個別化：各メンバーの独自性の認識
- ②グループの個別化：各グループの独自性の認識
- ③メンバーの受容 ④ワーカーとメンバーの援助関係の構築
- ⑤メンバー間の協力関係の促進 ⑥必要に応じたグループ過程の変更
- ⑦メンバーの能力に応じた参加 ⑧問題解決過程へのメンバー自身の取り組み
- ⑨葛藤解決の経験：メンバーが葛藤解決のための方法を経験することで、社会的成長につながるように援助する。グループ内での葛藤に対してメンバーが自分たちで解決できる方法を見出せるように導く。ワーカーはグループ内の葛藤を抑圧するのではなく、必要に応じてその葛藤を表出させ、メンバーが葛藤を直視し、主体的に取り組めるように支持する。
- ⑩新しい様々な経験の機会
- ⑪制限の使用：グループをメンバーにとって安心できる場とするためにも、メンバーが自分や他人に害を加えたり、人間関係を破壊する行動をとったりすることがないように、必要に応じて制限を加える。
- ⑫目的を持ったプログラムの活用 ⑬継続的評価 ⑭グループワーカーの自己活用
2. **グループダイナミクス**：グループの中で生じるメンバー同士の力動的相互作用。援助者はグループダイナミクスを把握してグループへの働きかけを行う。
3. **集団規範**：グループダイナミクスの一つ。グループ構成員の多くが共有することになる判断や思考等のこと。

問題 14 グループワークにおけるメンバー間の葛藤への援助者の対応に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- (×) 1 グループの健全な成長に向けて、メンバー同士の衝突を避け、葛藤を取り上げないようにする。
- (×) 2 葛藤が生じた場合、グループ全体にかかわる課題ではなく、メンバー個々の言動に関してコメントするように促す。
- (×) 3 強く意見を主張するメンバーにリーダーシップをとらせる。

- (○) 4 葛藤の背後には、他者を理解しようとするエネルギーが隠れており、それを引き出してグループが成長する手助けをする。
- (×) 5 解決策を見いだすためには、グループ全体の意思決定を優先させ、メンバー個人の心配事やニーズの表出を控えさせる。

【解説】 1 葛藤解決の経験がメンバーの成長を生む。 2 グループ全体に働きかけて共有する。
3 メンバー同士に対等な関係を重視する。
5 メンバーの個別化が原則であり、グループ全体の意思決定を優先するものではない。

問題 15 グループワークにおけるプログラム選択に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- (○) 1 グループのメンバーそれぞれの目標と、グループ全体の目標の双方を達成できるかどうかを基準に選択する
- (×) 2 グループ活動を円滑に展開するため、ワーカーの個人的な好みや得手不得手を基準に選択する。
- (×) 3 グループの活動期間を通じてメンバー間の親和性を高めることを重視し、メンバー間に葛藤を生じさせないことを基準に選択する。
- (×) 4 凝集性を高めるために、多様なメンバーそれぞれが、同一の参加方法でかかわることができることを基準に選択する。
- (×) 5 複数のプログラム活動で全体のプログラムが構成される場合であっても、各プログラム活動において参加メンバー全員が満足することを基準に選択する。

【解説】

- 2 グループメンバーの希望や意思、グループの状況が尊重されるべき。
- 3 メンバー同士の親和性や葛藤も含めてのグループ体験を促す。
- 4 各メンバーの能力に応じた参加を可能にし、かつその能力を高めることができるように援助する。
- 5 プログラムの満足度には当然のことながら個人差がある。参加メンバー全員の満足を基準にするのではなく、各プログラムが個々のメンバーにとってどのような意味があるのかを検討して、選択する。

Ⅸ. スーパービジョン（ソーシャルワーカーとして成長するために大切なこと！）

1. スーパービジョンの3つの機能

- ①管理的機能：援助者が、所属する機関や施設の目的に沿って、適切に業務を遂行しているかどうかを把握する。
- ②教育的機能：援助活動における価値や必要な知識、社会資源の活用や援助方法・技術などを具体的に指導する。
- ③支持的機能：援助者を精神的にも支えながら、日々の仕事に意欲的に取り組むことが出来るようにする。

2. コンサルテーション

- ・スーパービジョンと似た意味の言葉なので混同しないように注意。ソーシャルワーカーが、法律、医療、心理などの特定の領域の専門家（コンサルタント）から援助に必要な助言などを受けること。
- ・スーパービジョンは上下関係で行われることもあるが、コンサルテーションは専門職同士の「対等な関係」のなかで行われる。

問題 16 スーパービジョンに関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- (×) 1 個人スーパービジョンとは、複数のスーパーバイザーが、一人の援助者に対してスーパービジョンを行うことをいう。
- (×) 2 グループスーパービジョンとは、複数のスーパーバイザー間の相互作用を活用しながら、援助者に対してスーパービジョンを行うことをいう。
- (×) 3 セルフスーパービジョンとは、援助者が所属する職場内の人間関係を、援助者自らが活用してスーパービジョンを行うことをいう。
- (×) 4 ピアスーパービジョンとは、援助者が所属する職場内の上下関係を活用してスーパービジョンを行うことをいう。
- (○) 5 ライブスーパービジョンとは、スーパーバイザーが援助者の実践場面に同席するなどしてスーパービジョンを行うことをいう。

【解説】

- 1 個人スーパービジョンは、一人のスーパーバイザーが一人の援助者に対して行う。スーパービジョンの基本的な形態。
- 2 グループスーパービジョンは、一人のスーパーバイザーが複数の援助者に対して行う。スーパーバイザーである援助者間に生じる相互作用により、新しい気づきや発見を得ることができ、その場の援助者全員の成長が促される。
- 3 セルフスーパービジョンは、援助者が自分の行った援助や業務の内容について、後に自ら振り返り、見直しをすることでの点検や確認を行う。
- 4 ピアスーパービジョンとは、スーパーバイザーが同席せず、同僚や仲間同士で行われるスーパービジョン。棚害に同じ立場で気楽で親しみやすい意見交換ができる。一方でスーパーバイザーが不在のため目的やそれに対する確認作業が曖昧になるおそれもある。
- 5 ライブスーパービジョンとは、利用者がいる場面で行われるスーパービジョンの形態。スーパーバイザーがモデルを示すことで援助技術の実践場面での活用などを援助者に学ばせることができる。また実際の援助場面に沿ったより具体的な助言や指導を行うことができる。

問題 17 スーパービジョンに関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- (○) 1 スーパービジョンの機能には、管理的・教育的・支持的機能がある。
(×) 2 スーパービジョンとは、個人スーパービジョンのことを指す。
(×) 3 ソーシャルワーカーは、スーパーバイザーから支えられることで、信頼関係のなかで意欲的に仕事に取り組むことができる。
(×) 4 スーパービジョンは利用者理解に主眼がおかれるため、支援者としての自己理解は目的ではない。
(×) 5 ピアスーパービジョンとは、スーパーバイザーの介在のもと実施されるものである。

【解説】

- 2 他にもグループスーパービジョンやピアスーパービジョンがある。
- 3 「スーパーバイザー」ではなく、「スーパーバイザー」から支えられる。
- 4 支援者としての自己理解（自己覚知）を深めることも目的としている。
- 5 スーパーバイザーが介在せずに、同僚や仲間同士で行われる。

X. ソーシャルワークの記録（ソーシャルワークは「記憶」ではなく「記録」でやる仕事！）

問題 18 記録に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- (×) 1 叙述体とは、誰が言ったのかわかるように、その人とその人の言った言葉をそのまま記述する文体をいう。
(×) 2 要約体とは、逐語体の文章から重要な部分だけを残して、他を削除した文体をいう。
(×) 3 逐語体とは、把握した事実、経験したことを客観的に記述する文体をいう。
(×) 4 エコマップとは、家族関係図のことをいう。
(○) 5 説明体とは、把握した事実について、説明や解釈、主観を記述する文体をいう。

【解説】

- 1 叙述体（過程叙述体）とは、時間の流れに沿って、ワーカーの働きかけ、クライアントとその状況の変化など事実をありのままに記したものの、記録者の解釈や意見を加えずに、経過を時系列にまとめた描写的なもの。
- 2 要約体とは、把握した事実内容について、記録者の解釈や意見も加えて、要点を整理して記述したもの。
- 3 逐語体とは、クライアントとワーカーとの会話のやりとりなどを、話された言葉通りに正確に記述したもの。
- 4 エコマップは生態地図というが、家族に限らずクライアントの社会関係全体を表す。
- 5 説明体とは、援助者が把握した事実について、記録者が解釈や意見を加えて、説明したもの（所見など）。

問題 19 相談援助の記録に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- (×) 1 時間の経過に伴って生じた出来事や変化を記述する過程記録では、クライアントがどのように変化したかということに絞って記述する。
- (○) 2 クライアントに当人のケース記録を開示する場合には、ソーシャルワーカーには、その記録に含まれる第三者の秘密を守ることが求められる。
- (×) 3 サービス提供者間で記録を共有することは協働を促進し、関係者間で開催する会議を代替しうる。
- (×) 4 面接場面で起こった詳細な内容を伝えるためには、記録者の解釈を加えた逐語記録が適している。
- (×) 5 福祉サービスの提供者と利用者との対等な関係を保つために、社会福祉法の制定により、記録の役割に説明責任を求める条項が新たに付け加えられた。

【解説】

- 1 時間の経過に沿って援助の実際を記述する過程記録では、クライアントの変化だけでなくワーカーの働きかけについても記述される必要がある。
- 2 クライアントに対する守秘義務と同様に、第三者の個人情報に関する守秘義務もあるので、クライアントといえども第三者の情報を了解なく伝えることはできない。
- 3 関係者間の会議を代替するものではない。
- 4 逐語記録では、記録者の解釈は加えず、面接場面の言葉のやり取りをありのまま記述する。
- 5 社会福祉法にそのような規定はない。

問題 20 病院に勤めるN医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）は、交通事故で歩行機能障害になったAさん（55歳、男性）を主治医より紹介され、数回の面接を行った。入院中のAさんの状態から、自宅内を自力で移動するためには手すりの設置等の住宅改修が必要であることが分かった。退院計画作成のため、N医療ソーシャルワーカーは、作業療法士とともにAさんの一時帰宅に同行し、改修の必要な箇所や他に支援を要することがあるか否かを確認することにした。病院と自宅の行き帰り、そして自宅において、Aさんは障害にまつわる不便さや苦痛、自宅での生活で予想される困難など様々なことを思いつくまに語ってくれた。

次のうち、N医療ソーシャルワーカーがAさんの自宅を訪問した後に、退院計画作成のために書く記録の文体として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- (×) 1 説明体 (○) 2 要約体 (×) 3 逐語体
- (×) 4 叙述体 (×) 5 圧縮叙述体

【解説】 5 叙述体には、過程叙述体と圧縮叙述体がある。過程叙述体（一般に「叙述体」と言われるもの）は状況の詳しい記述やクライアントやワーカーのやりとり、クライアントの感情表現なども記される。圧縮叙述体は、クライアントの感情表現などを除いた「客観的事実のみ」を整理して記述する。退院計画には、Aさんの気持ちや感情も含めた状況についての、関係者と共有できる、要点が整理された記録が必要であるため、圧縮叙述体は適切でない。

～社会福祉士となった皆さんが「為すべきこと」が、合格の向こう側で皆さんを待っています。がんばりましょう！！～